



VOL.20 No.1 The University of the Ryukyus Library Bulletin.1987.3.20

資料に聴く

鵜飼照喜

たぶん、本学図書館の沖縄資料収集小委員会の席でのことだったと思う、「社会学の資料収集としては、個人の生活の記録を堀りおこすことが重要な作業であるが、文字として、あるいは記録として残っていないものを文字化するというやっかいな作業もある」と発言した記憶がある。

この、「文字化」することについては、社会学のオーソドックスな研究方法としてアンケート調査が行なわれることはすでに広範に知られている。しかし、それとともに、「アンケート」という形はとらなくてもたんねんに聴き書きすることがアンケートの補完としても重要なことであることは、社会学を専攻するものにとって常識であるし、それを専攻学生に理解させることも重要な課題になっている。そこで、社会学の実習では地域社会の研究として多くは農村部の集落を選んで資料

目次			
資料に聴く 鵜飼照喜……………	1	1987年度新規購入国内雑誌リスト……………	11
私の古持籠 新城安善……………	3	国際資料コーナーの案内(1)……………	12
定年退職者 野原敏弘……………	5	故ガイスト博士の蔵書の受贈について……………	15
図書館業務電算化通信No.4……………	7	教官寄贈図書……………	16
DIALOGオンライン文献情報		ブラウジングコーナー……………	17
検索サービスの開始について……………	10	図書館事情……………	18
自然科学系・工学系欧文雑誌の配列変更…	11	医学部分館コーナー……………	20

収集を行なわせる。それとともに学生個人の関心のあるテーマごとに調査票を用意させ、それへの回答を最低限のものとして地域社会での人々の生活の生きた姿をとらえさせるようにしている。

ところが、「調査票」はあくまでも調査する側の関心に左右され、また制約された枠組でしかなく、現実の生活はその枠に制約されることなく豊かな内容をもつものであることは言うまでもない。それ故、社会学の実習ではあるテーマに沿ってあらかじめ考えられうる限りの設問を設定して調査票を作り、調査に出かけるものの、設問の枠外でどれだけ多くの聴きとり調査ができるかが実習の成果を大きく左右するものとなる。もちろん、我々としてもことの重要性は同様である。そのことによって調査票の回答が数値化された際、その数値の持つ意味をいかに深く読みこむことができるかが左右されることになる。

それ故に、学生の実習に際し、枠から積極的にはみ出すこと、つまり脱線をすすめているのである。

それでは、その脱線のエネルギーはどこから出てくるのか。それは言うまでもなく調査される側からである。そして、脱線の方向も同様である。ここで重要なのは、あるテーマで調査が行なわれている時、調査される側が調査の枠組のなかで答えていくうちに、自然に一つの方向でその枠の外にはみ出していくことの意味である。つまり、そのはみ出す方向性は調査される側にとって重要な方向性なのであり、その方向性の意味するものを把握することが新しい発見につながる可能性があるからである。その新しい方向性があらかじめ用意した調査の枠組での結果とうまく結びつくことができれば、数値化された調査結果は生き生きとした生活の姿を示すものとなる。逆に枠からはみ出すことなく調査される側のもつ方向性をつかみそこねた時には、調査結果を数値化することは、その後の作業でできるものの、数値の意味するもの、数値の背後にある生活の姿と人々の声を生き生きとしてとらえることができないで終る。そうした数値は、いわば「声なき文字（数字）」とも言おうか。

ところで、目下沖縄県で大きな問題となっている新石垣空港問題には、単に白保地区の自然保護という視点だけでなく、地域開発のあり方を問うという視点から、直接かかわりあいをもつことになって、早くも一年半を経過した。その関わり方のなかで、地域住民の生の声を聴くことから私の仕事は始まったし、今でもそれはつづいている。この問のかかわり方は、それ故、先に述べたような「調査」という質のものでないことは言うまでもない。そこでは「方向性」が強固であるが故に、制約もあるが、他方では生の声をきく機会として、その声の深さと広がり一般的な「調査」とは比較にならない。それを思うと県の審議会たる新石垣空港問題懇話会の「提言」には、県の意図たる「方向性」が明瞭に打ち出されてはいるものの、反対住民の生の声はもとより、石垣市や県内の声もきこえてこない。さらには「提言」作成に関与した懇話会の委員の生き生きとした姿さえもうかんでこない。読みとることのできるのは、県首脳に尻をたたかれた空港課の職員の味気ない作文能力だけである。にもかかわらず、「提言」は、後世に残る重要な資料としての位置にある。一体、後の歴史家は「提言」に関与した学者の声をどのように評価するであろう。

(うかい てるよし：教養部教授 社会学)

〈退官記〉

私の古持籠

—琉大図書館を去るにあたりて—

新城 安善

沖縄の諺に〈年は馬の走り〉、というのがある。“歳月の流転、まさしく（トシヤウヌハイ）と馬の疾走ぶりにたとえた古人の心情は、実に沖縄の風土にかなった直叙的な表現であり、こころ憎いものが感じられる。

おもえば、私が琉球大学附属図書館の職務に就いたのは、1958年（昭和33年）4月のことであった。あれから通算してみると、閲覧係に7ケ年、整理係に14ケ年、参考司書に8ケ年の職務を経てきたことになる。この29ケ年間の歳月は、通常の職務経験からみれば、決して長いものではない。

しかし、私にとっての29ケ年間に要約すれば、通常の職務と併行して沖縄資料と対峙したかたちで、閲覧・整理・参考などの職務一筋であったように考えられる。

その歳月の大半が古都首里におけるキャンパス時代を過ごしてきただけに、日々の職務の厳しさと優しさが、ひとしお懐しくしのばれるのである。

私は、いま琉球大学附属図書館を去るにあたって、これまで私に与えられてきた職務を回顧しながら、追憶的な形影を拾い集め、私の籠にもりあわせてみよう！、というわけである。なかにはこぼれ落ちる草々もあるかも知れない。その辺はよろしく寛大にさせていただきたい。

閲覧係の名称は、もともと運用係と称していた。（大学機構改革で附属図書館の事務組織改組で1964年（昭和39）10月に閲覧係と改称された）したがって私が運用係員に配置（1958. 4～1960. 3）されたときと参考司書から閲覧係長に配置換え（1972. 5～1977. 4）との時期にわけられる。前者の場合は、図書館報「U. R. レビュー」創刊（1958. 4）、第2号（1958. 7）に、「Pretestとしての調査資料報告」をまとめあげた。今後の図書館運営に資するために、全学生を対象にアンケートを実施したときの結果報告であった。E. R. Bull 牧師所蔵の沖縄関係図書やマイクロフィルム等が、ときのプース高等弁務官を通じて琉大に譲渡（1958. 12）があり、その当時沖縄関係の外国語図書が少なかつただけに、深く感動をうけたものである。

後者の場合は、琉球大学が名実ともに国立移管（1972. 5）と同時に、はじめての閲覧係長を拝命した時期である。教官貸出図書の管理保全について協力依頼、指定図書の管理運用、教官研究用図書の確認調査、沖縄資料の閲覧業務など係職員の協力で鋭意つとめてきた。その反面、学生自治会による図書館封鎖がたびたび強行され、閲覧業務を担当する責任者として、その対応に苦慮させられる事態があった。なかでも授業料値上げ反対集会が図書館玄関前の広場で開催され、学生部発行の学生便覧を焼却する事件（1972. 12）が発生した。警察機動隊導入で学内が騒然となり、刑事事件に発展し検察・裁判沙汰の渦中、私が証人台（焼却事実を確認したという証言）にたたざるをえなかったことは、まことに不幸な出来ごとであった。

当時の運用係から整理係員に配置換え（1960. 4～1964. 9）の時期と閲覧係長から整理係長に急拠配置換え（1977. 5～1987. 3）の時期にわけられる。整理係長職務14ケ年とは前代未聞のこ

とだといわねばなるまい。

前者の時期は、資質向上の目的でロックフェラー財団の援助をうけて、慶応義塾大学情報図書館学科での研修（1961. 10～1962. 3）は、実務に大きく裨益するところがあった。私の研修目的は、①沖縄資料分類コードを体系化すること。②戦前の沖縄県立図書館編集の所蔵目録を探書すること、の二点にあった。

現在使用している「郷土資料分類表」〈1968. 3使用〉の原型は、帰任後における素案作成（1964. 4）がベースになっている。

所蔵目録は、幸運にも国学院大学図書館に在在することがわかり、「琉球史料目録」（1924年版）と「郷土志料目録」（1929年版）を約15日間かけて全冊写本することができた。

八重山の宮良殿内所蔵史料調査（1962. 5）及び寄贈受入（1962. 11）、目録作成（1963. 3）などで図書資料に重厚さを増すことができた。現在の〈宮良殿内文庫〉がそれである。

ハワイ大学東西文化センターから沖縄関係資料（マイクロフィルム）の寄贈（1963. 3）、台湾大学から「歴代宝案」（マイクロフィルム）の寄贈（1963. 3）、鎌倉芳太郎氏所蔵「歴代宝案」が、宮田俊彦教授のご好意で寄贈（1963. 5）、当時の南方同胞援護会から沖縄関係図書の寄贈（1963. 12）などがなり、整理業務においても繁忙をきわめる日々であった。

こうして沖縄資料の質的量的に増加の一途をたどるなかで、資料目録編集の事業の機運が高まった。これまでの目録（1957年版）を全面的に改訂増補する企画にもとずいて、特色ある目録にすべく原稿作成（1963. 4）が開始された。ほぼ1ケ年余の時間をかけて完了したものの、諸般の事情によって目録原稿は未刊行のまま2ケ年間放置せざるを得なかった。後者の時期は、13ヶ月ぶりの配置換えであった。九州地区大学図書館協議会から永年勤続の表彰（1978. 5）、琉球大学永年勤続の表彰（1978. 11）。首里キャンパス最後の記念に「沖縄関係資料目録」増加版（1981. 3）の刊行、第28回国立大学図書館協議会総会沖縄大会（1981. 6）開催にむけて諸準備で多忙をきわめた。千原キャンパスの新館移転の後に「沖縄関係資料目録」第2集増加版（1984. 3）の刊行は、私にとって最後のメモリアルなものとなった。沖縄研究資料調査収集小委員会と図書館との協力態勢によって生産された実績であることは、論及するまでもないことである。

琉大機構改革にともない図書館事務組織の改組によって、参考司書が新設（1964. 10）された。整理係員からの配置換えである。図書館資料の選択及収集、文献情報の提供、参考事務及び書誌作成、沖縄資料の現地調査等が主要業務であった。アジア財団の援助によるハワイ大学との沖縄資料交換（1964. 11）、琉球政府立中央図書館の東恩納寛惇文庫資料の目録作成協力（1965. 8）、2ケ年間放置されていた目録原稿によって、「琉球大学郷土資料目録」改訂増補版の刊行（1966. 6）、沖縄本島及び久米島・宮古・八重山地区を踏査し資料調査の継続的実施（1967～1971）、図書館報「びぶりお」創刊（1965. 5）は、紆余曲折ながら第21号（1971. 4）まで、手作りによる刊行であった。

本土復帰前夜における学生自治会の動向に不穏なものがあり、沖縄資料（特に貴重資料）を琉球政府立中央図書館に一時移動（1976. 4）させる措置を講じたのも、その頃のことであった。

閲覧・整理・参考など職務にかかわる時期が前後してしまいましたが、私の古持籠に拾い集めた追憶の草々は、以上のようなものである。

歴代図書館長をはじめ事務長・部長・課長の御指導のもとに、数多くの専門職、一般行政職のみなさんとの出会いによる親交と協調によって、つつがなく微力をつくしえたことは、私にとりましてこのうえない歓喜であり、深く感謝の意を捧げたい。琉球大学附属図書館が国立大学図書館協議会賞をうける光栄に浴したこと、学術情報センターとの学術的情報の接続が完結されたことなど、大きなイベントは、今後琉球大学附属図書館の発展を象徴するものである。

最後に、みなさま方のご健勝と琉球大学附属図書館のかぎりない躍進を祈念してやみません。ここから重ねて感謝申し上げます。

ほんとうにありがとうございました。

1987年（昭和62）3月31日

（しんじょう やすよし：整理係長）

〈退官記〉

定 年 退 職 者

野 原 敏 弘

若い頃、ぼくはCharls Lamb やWilliam Hazlitt の随筆を好んで読んだ。特にLambの“The Essays of Elia”を愛好した。ぼくがLambに興味を感じたのは、その文学のなかに、東洋的な諸業無情を感じたからではなかったかと思う。彼の文学には、人間に対するしみじみとした思いが漂っているのである。イギリスの随筆文学は18世紀に確立し、Lambに至って完成されたと言われる。それが、まさに“The Essays of Elia”であった。Lambの随筆は1820年に世に出た。LambもHazlittも同時代の人であった。

Lambの随筆集のなかに“The Superannuated Man.”（定年退職者）というのがある。文章の冒頭に“A Clark I was in London gay.”（わたしゃロンドン、花の都の会社員）という文句があるが、これは古劇の中に出てくる言葉だそうで（平田禿木の註による）、Lambはこの言葉が好きだったらしい。

Lambは、ロンドンの町の喧噪が好きだった。彼は、市井のざわめきの中で生き、20余年間、ロンドンの東印度会社の会計係としてはたらいだ。Lamb流に表現すれば、ロンドンの舗道の固い敷石を踏み減らして家と会社の間を往復したのである。

彼にとって、日曜日のロンドンとは、つまらないものであった。“In particular, there is gloom for me attendant upon a city Sunday, a weight in the air. I miss the cheerful cries of London, the music, and the ballad-singers—the buzz and stirring murmur of the street. Those eternal bells depress me. The Closed shops repel me.”街のにぎやかな呼び売りの声もなく、店も閉まっている。街角で歌っている人もいない。gloomyなロンドンの町なのである。彼は、市井のざわめきのなかに身を置いた会社員であった。

或る日、彼は、会社の重役に声をかけられる。「近頃、顔色が悪いようだが。」これに対して、Lambは、体の具合が悪くて、辞職した方がよいのではないかと答えているのである。しかし、後で後悔する。自分で自分の首切りの手伝いをしたようなのだと一週間ばかり悶々として日を過ごすのである。

一週間後、会社の重役たちはLambを呼んで、これまでの彼の功績について話し、年に450ポンド年金を支給したいがと言い、退職を勧めた。もう、会社へ出勤しなくてもよいことになったのである。Lamb50歳であった。

退職後、彼は2回ほど、元の職場を訪れている。彼のかつてのdesk-fellowsに会う。元と同僚たちは快く迎えてくれ、昔のように洒落をとばしたりするが、まだ、浮世の戦闘をつづけている彼等とは、どこか、しっくりいかないところがある。そして、“my old desk, the peg where I hung my hat, were appropriated to another. I knew it must be, but I could not take it kindly.”となる。自分の使っていた机、帽子かけは、もう他人が占有している。それは当然のことだが、彼は、嬉しくない思いだったのである。みんな、よそよそしいものに思えてくる。

Lambの随筆は、すべて、自分の身の事柄を書いたものだが、この“The supernuated Man.”は、停年退職者の心境を述べたものである。

何故、ぼくが、Lambのことを書いたかという、実は、ぼくも、この3月いっばいで停年退職者となるのである。

20数年ぶりに、ぼくは、本棚から、研究社英文学叢書の平田禿木註釈の“The Essays of Elia”を取りだし、ほこりを払って、赤ちゃけた頁をめくってみた。丹念に、辞書をひいて、書き込んで勉強したあとがあった。表題紙のところに、From: Mr. Morriとぼくの自筆のペン書きがあるので、モリさんという人からもらったものであろう。

ぼくは、琉球大学の1期生である。琉大の創立当初は、那覇には書店もなく、貸し本屋が1軒あったきりであった。本を買って入手するなど、到底不可能な時代であった。ぼくは、心をこめて、この1冊を読んだにちがいない。

琉球大学は、沖縄戦で破壊された首里城跡に建った。木造瓦葺きの平家で、1棟が2教室に仕切られてあった。草木ひとつない、石ころだらけの、運動場のように広い中庭をはさんで、向き合って、数棟の校舎は建っていた。そのなかの1棟の1教室が図書室になっていた。誰かが「おい、図書室があったよ。」といて、本を抱えて、誇らしげに教室に入ってきた。ぼくたちは、石ころだらけの中庭をつきつて、向かいの校舎の図書室へ向った。開室間もない図書室はまだ雑然としていたが、書架は「デモクラシイ云々」とか、「民主主義云々」といった、多分アメリカ軍政府から贈与されたであろう図書で、ぎっしりつまっていたように記憶している。

当時、我々は食べる者にも、活字にも飢えていた。だから、図書館から本が借りられるというだけで、かすかな満足感を胸に抱いていたのである。

ぼくが、3年次か4年次の頃だったろう。西鶴全集が、ずらっと、カウンターに並んだ。戦後始めて接する、本格的な日本の文学書であった。ぼくは、何日も、授業をさぼって西鶴全集に読みふけた。

我々の学年に、シェークスピアを講じておられたG教授は、厳格に、学生の出欠をとられる先生であった。名前を呼ばれて、ぼくが返事をする、老眼鏡越しに、ぼくのほうをじっとごらんになられた。やがて、つかつかと歩いてこられて、また、じっと、眼鏡越しにぼくを見られた。ぼくは、仕方なしに、もじもじしながら先生を見上げて、てれ笑いをしていたが、先生は、何も、おっしゃらなかった。滋父のような温かいお方であった。今、懐かしく思い出している。

(のはら としひろ：医学部分館閲覧係長)

〈図書館業務電算化通信 No.4〉

学内情報検索システムのサービス開始

1. 図書館電算化の経緯

情報処理センターの学内電算化計画の一環として琉球大学附属図書館ではトータルな電算化への努力を続けています。昭和57年10月22日に閲覧管理を開始し、現在は富士通製の大規模図書館向けシステム I L I S (Integrated Library Information System) を導入中で、昨年10月にはそれまでの閲覧システムから I L I S の閲覧システムへと切り替えが終わりました。雑誌受入、目録登録、目録検索、学術情報センター接続の各システムも一部稼働あるいは導入中であり、これらの次には図書受入システムの導入がひかえています。

このトータルな図書館業務電算化の一環として、このたび、情報処理センターの多大な指導ご協力により、新着洋書・雑誌の案内及び雑誌・図書の所蔵情報検索のサービスを開始することになりました。

図書館業務の電算化は利用者へのサービス向上を第一目的としていますが、外部からはそれが見えにくいところがあります。しかし、今回の新サービスは直接的に利用者に関連しているサービス強化です。これを機会に図書館業務への一層のご理解とご協力をいただければ幸いです。

2. 各システムの概要

このシステムは学内情報処理センターの T S S 端末ならどこからでも利用できます。具体的な操作手順は「3. 操作手順」をお読み下さい。

(1) 新着雑誌案内システム

新着雑誌案内システムは最近受けられた和洋雑誌の情報をお知らせするものです。対象とする分野と日付を指定することによって該当する情報を得ることができます。

(2) 新着洋書案内システム

新着洋書案内システムは最近整理を終えた洋書の情報をお知らせするものです。対象とする分野と日付を指定することによって該当する情報を得ることができます。

(3) 雑誌所蔵検索システム

雑誌所蔵検索は、医学部分館のものも含めて琉球大学附属図書館の所蔵する雑誌についての最新所蔵情報をお届けするものです。富士通の情報検索システムであるFAIRSによって検索することができます。

(4) 図書所蔵検索システム

図書所蔵検索は、医学部分館のものも含めて琉球大学附属図書館の所蔵する図書についての情報をお伝えするものです。FAIRSによって検索することができます。

3. 操作手順

新着案内システム操作は以下のような手順で行います。

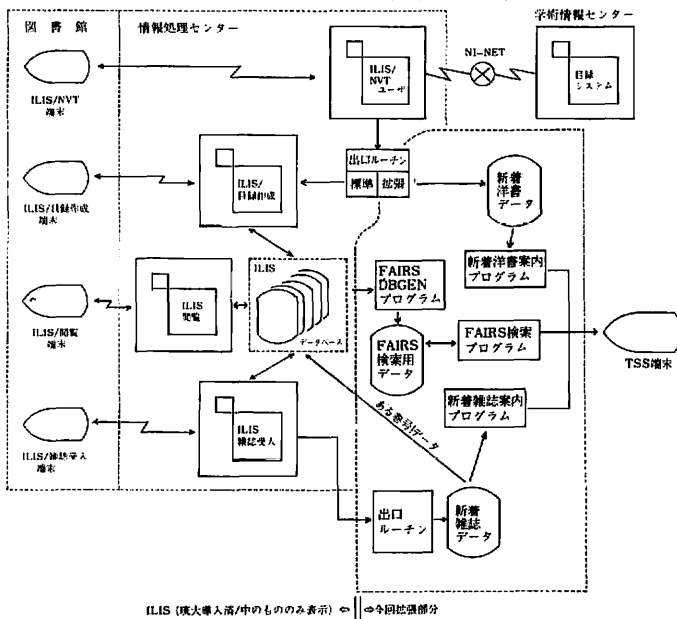
- 1) まず学内情報処理センターのTSS画面を呼び出します。
- 2) TSS画面で表示されている>>の次にLBRと入力します。
- 3) 画面が新着案内の画面にかわります。

指示に従って、まず雑誌か図書かを選びます。つぎに日付対象分野を、最後に本館か医分館かを入力します。

- 4) 新着情報が表示されます。一画面で入りきれなかった場合には画面の一番下に***という入力促進記号が現れます。次の画面を見るためには実行キーあるいは入力キーを押して下さい。
- 5) 処理が終わったら新着案内終了というメッセージと入力促進記号が現れますので実行キーあるいは入力キーを押して下さい。画面はもとのTSSのコマンドモードに戻ります。

所蔵検索システムの操作手順については、「学術雑誌検索の手引」(びおりお Vol.19 no3,1986)を参照して下さい。

4. 新着雑誌・洋書案内システム及び雑誌・図書所蔵情報検索システム概念図



図書館業務電算化日録

昭和61年11月～62年2月

- 11月1日(土) V830撤去
 6日(木) 医学部分館閲覧電算化打合せ
 10日(月) 医学部分館電算化打合せ
 12日(水) ワーキンググループ電算班会議(第8回)
 13日(木) 富士通との打合せ
 19日(水) (株)電算との打合せ
 21日(金) 富士通との打合せ
 12月1日(月) 医学部分館電算化打合せ
 3日(水) 富士通・計算センターとの打合せ
 (琉大図書館システムスケジュール等について)
 12日(金) I L I S説明会
 23日(火) 1階ΣをNVT化(3階Σより)配線工事
 24日(水) 3階ΔをTSS化
 富士通・計算センターとの打合せ
 26日(金) 富士通との打合せ
 1月6日(火) 学術情報センター目録システム実務モードへ切り替え
 9日(金) 富士通との打合せ
 16日(金) 富士通との打合せ
 19日(月) ワーキンググループ電算班会議(第9回)
 23日(金) 富士通との打合せ
 28日(水) I L I S目録作成オペレーション教育(～29日)
 30日(金) 富士通との打合せ
 2月5日(木) 実務者打合せ(第1回)
 10日(火) 富士通との打合せ
 12日(木) D I A L O G講習会(～13日)
 実務者打合せ(第2回)
 18日(水) 富士通との打合せ
 19日(木) 実務者打合せ(第3回)
 26日(木) 実務者打合せ(第4回)
 27日(金) 富士通との打合せ

DIALOG オンライン文献情報検索サービスの開始について

当図書館ではJOIS（日本科学技術情報センター提供）を利用しているオンライン文献検索サービスを行っていますが、昭和62年4月1日よりDIALOG（米国DIALOGインフォメーションサービス社提供）によるオンライン文献検索サービスも開始することになりました。

DIALOGは250以上ものデータベースからなる世界最大のデータバンクです。世界中の広範囲にわたる膨大な情報を蓄積したデータベースの中から必要な情報を迅速に入手できますので、学術研究が一層効率的に行えることが期待できます。またJOISは主として自然科学系を対象にしていますが、DIALOGはその他の分野も網羅していますので広い分野での文献検索が可能になります。

なお、DIALOGの利用料金と利用時間は以下のとおりです。

利用料金表（250以上あるデータベースの一部）

データベース名	データベース 使用料金/分	オンライン タイプ料/件
MEDLINE（医学、薬学、医薬品）	0.60(\$)	0.05(\$)
BIOSIS PREVIEWS（生命化学）	1.40	0.24
CA SEARCH（化学全般）	1.50	0.23
CAB ABSTRACTS（農学）	0.92	0.25
COMPENDEX（工学）	1.08	0.35
ERIC（教育）	0.50	0.10
INSPEC（電気工学）	1.60	0.36
NTIS（科学技術全般）	1.15	0.25
OCEANIC ABSTRACTS（海洋科学）	1.45	0.40
PSYC INFO（心理学）	0.92	0.35
LEGAL RESOURCE INDEX（法学）	1.50	0.10
NEWSEARCH（新聞・雑誌記事索引）	2.00	0.10
DISSERTATION ABSTRACTS ONLINE （米国カナダの学位論文）	1.20	0.25

利用時間 月～金 9:00～16:30（但し、12:00～13:00をのぞく）
土 9:00～9:30

注：利用できる期間は、毎年4月1日から翌年の2月末日までです。

自然科学系・工学系欧文雑誌の配列変更について

学術雑誌の書架上の配列は、単行本と同じように「日本十進分類法」によって分類配列してある。雑誌の場合は「綱」(100区分)の中を誌名のABC順配列にしてある。

分類順配列は、関連分野の雑誌が隣に配列されているので、すぐにみることができる利点があるが、分類番号がわからないと探しにくい欠点もある。特に自然科学、応用科学分野の雑誌は境界領域の問題や学問の分化、総合又は新領域の発生で分類が難しく、分散することがある。このような分類配列の欠点をカバーするために、自然科学系(4類)と工学系(5類)の欧文雑誌のバックナンバーについては4月から誌名のABC順配列に変更することになった。誌名の配列順位は、「学術雑誌総合目録 自然科学欧文編 1979」に従っている。製本時につけた誌名が必ずしも統一されていないので、「学総目」の配列順位のとおり誌名統一して配列してある。特にBulletin, Journal, Proceedings, Transactionsのつく誌名については注意が必要です。不確かな時は上記の「学総目」で誌名を確認してください。

1987年度新規購入国内雑誌リスト

誌名	配架場所	誌名	配架場所
1 Archivum Histologicum Japonicum	医分館	21 月刊社会教育	本館
2 bit	本館	22 月刊女性	本館
3 KGKジャーナル	本館	23 現代化学	本館
4 NEWTON	医分館	24 現代のエスプリ	本館
5 アニマ	本館	25 現代のエスプリ(別冊9)	本館
6 アトリエ	医分館	26 現代農業	本館
7 医師国試対策	医分館	27 公衆衛生情報	医分館
8 映画芸術	本館	28 子供と教育	本館
9 音楽の友	医分館	29 社会心理学研究	本館
10 オンライン検索	医分館	30 小学校学級経営	本館
11 科学と思想	本館	31 新沖縄文学	医分館
12 科学史研究	本館	32 数学セミナー	本館
13 海燕	本館	33 精神分析研究	本館
14 海洋科学	本館	34 旅	本館・医分館
15 からだの科学	医分館	35 太陽(別冊含)	本館・医分館
16 教職課程	本館	36 地球	本館
17 季刊精神療法	本館	37 中学校学校経営	本館
18 芸術療法	本館	38 ドクメイテーション研究	本館
19 計測児童制御学会論文集	本館	39 日本ガスタービン学会誌	本館
20 芸術新潮	本館	40 日本の美術	本館

41 日本林業年鑑	本 館	46 風力エネルギー	本 館
42 農村計画学会誌	本 館	47 文化評論	本 館
43 東アジアの古代文化	本 館	48 分析化学	本 館
44 美術手帖	本 館	49 無線と実験	本 館
45 フィッシュマガジン	本 館	50 ライフサイエンス	医 分 館
		51 林業統計要覧	本 館

1987年度購入中止国内雑誌リスト

誌 名	配架場所	誌 名	配架場所
1 看護	医 分 館	11 人民文学	本 館
2 看護学雑誌	本 館	12 照明学会誌	本 館
3 教育国語	本 館	13 精神医学	本 館
4 計測と制御	本 館	14 精神神経学雑誌	本 館
5 言語	本 館	15 地学雑誌	本 館
6 言語研究	本 館	16 鉄道土木	本 館
7 交通技術	医 分 館	17 伝統と現代 (廃刊)	本 館
8 児童精神医学とその近接領域	医 分 館	18 流体工学	本 館
9 信濃	本 館	19 輸送展望	本 館
10 神経研究の進歩	本 館		

国際資料コーナーの案内 (1)

学内の研究者の要望で、OECD、UN、EC、UNESCO、アジア研究資料等の国際資料を関係機関にはたらきかけて寄贈・寄託あるいは購入して、3階雑誌閲覧室の国際資料コーナーに配架してある。

これらの貴重な資料群 (と思われる) の利用の促進をはかるため、国際資料の案内をいたします。

1. EC資料

当館は昭和60年11月にEC (ヨーロッパ共同体) 資料センターの指定を受け、EC関係の逐次刊行物、欧州議会議事録、人口および社会統計、農林漁業統計、貿易統計等が継続して入手できるようになった。

EC資料センターはEC委員会の教育政策の一環として、欧州統合に関する高等教育機関、研究所に設置されるもので、現在世界約50ヵ国に350、うち日本には北海道から沖縄までの17大学に設

置されている。

各センターには希望する言語（琉大は英語版）で書かれた出版物（定期刊行物またはモノグラフ）が、出版されると同時に自動的に送られてくる。当センターでは現在56種の逐次刊行物を含めて310冊の資料を受入れている。EC資料は広く学外の研究者へも解放している。

なお駐日EC委員会代表部では毎年EDCセミナーを各センター館もち廻りで開催しており、当館は1985年の第6回から参加している。セミナーでは各センターのレファレンス事例や利用状況等の報告および研究報告が行われる。第8回目の今年は慶応大学で開催されることになっている。

当センターで受入れている主な資料は次のとおりである。

The List of the publications of the European Communities

1. Advanced manufacturing equipment in the Community. (Bulletin,supplement 6/85)
2. Agricultural situation in the Community; 1984 report.
3. Amendments of the 1978 edition of the 'Treaties establishing the European Communities'.
4. Bulletin of the European Communities; commission, vol.18, no.2-6,1985.
5. COM Documents.
6. Catalogue 1984; publications of the European Communities.
7. Challenges ahead -a plan for Europe.
8. Collection of the agreements concluded by the European Communities, vol.1-11.
9. Combat pour l'Europe; la construction de la Communate europeenne de 1985 a 1966
10. Community legal order.
11. Consumer redress; Commission memorandum to the Council Transmitted on 4 January 1985.
12. Corps diplomatique; accrédité auprès des Communautés européennes.
13. Cross-border mergres of public companies-proposal for a tenth directive.
14. Customs Union of the European Economic Community.
15. Directory of community legislation in force and other acts of the community institutions, vol.1-2
16. Directory of higher education institutions.
17. Directory of the Commission of the European Communities.
18. Documents; annual catalogue 1983-1984.
19. Eighteenth general report on the activities of the European Communities 1984.
20. Euro abstracts (Section 1) , vol.23.no.12
21. Euro abstracts (Section 11) , vol.11.no.12,vol.12.no.1
22. Europa Transport, vol.18
23. Europe Information "External Relations" 82/85

24. European Communities in the international order.
25. European Economy, vol. 25, 26
26. European Economy (Supple. A) 1986, 1-2
27. European Economy (Supple. B) 1986, 1-2
28. European File.
29. European Investment Bank, 47-48
30. European monetary system; origins, operation and outlook.
31. European Parliament, 1986
32. European Parliament News, 1986
33. ES eurostat, 1985-1986
34. ES eurostat (Theme 3, Ser. B) 1986 1/2
35. ◇ (Theme 4, Ser. B) 1986, 2-4
36. ◇ (Theme 4, Ser. F) 1986
37. ◇ (Theme 6, Ser. B) 1986, 1-2
38. ◇ (Theme 7, Ser. B) 1986, 1-3
39. ◇ (Theme 9, Ser. C) 1986, 1
40. Eurostat; review 1974-1983
41. Ever closer Union; a critical analysis of the Draft Treaty establishing the European Union.
42. Finances of Europe.
43. Fourteenth report on competition policy.
44. Information Market, 43
45. Information memo.
46. Money, economic policy and Europe.
47. Newsflash, 35
48. Newsletter, 50, 51
49. Nuclear Safety in the European Community, 1985
50. Official Journal of the European Communities; Information and notices, 1985
51. Old world and the new technologies; challenges to Europe in a hostile world. (The European perspectives series)
52. Opinion and Reports, 1985-1986
53. Professions and justice European Communities, 1985-1986
54. Professions in the European Community; towards freedom of movement and mutual recognition of qualifications. (The European perspectives series)
55. Programme of the Commission for 1985. (Bulletin, Supple. 4/85)
56. Progress towards a common transport policy; maritime. (Bulletin, Supple. 5/85)
57. Recent Publications on the European Communities, 1985, 3-4

58. Report on social developments year 1984.
59. Rights of working women in the European Community. (The European perspectives series)
60. SCAD Bulletin, 1986
61. Step to European Unity; Community progress to date: a chronology.
62. Student handbook, higher education in the European Community.
63. Thirty years of Community law. (The European perspectives series)
64. Thrust of Commission policy; statement. (Bulletin, supplement 1/85)
65. Treaties establishing the European Communities, 1978
66. Terminologie et Traduction, 1985
67. Vocational Training Bulletin, 1985
68. Vocational training programs in small and medium-sized enterprises Seminar report.
69. Women of Europe, 1985

故ガイスト博士の蔵書の受贈について

1985年4月1日に73才で物故されたRobert J. Geist博士の蔵書を、マーガレット ガイスト夫人が、本図書館へ寄贈された。寄贈図書は501冊の多きにわたり、研究資料として貴重なものばかりで、本学の英語、英文学、および言語学の研究教育に大いに役立つものと期待されます。

ガイスト博士は、1912年2月6日にニューヨーク州バッファロー市で生まれ、ミズリー大学でM. A. イリノイ大学でPhD. の学位を手得され、ミズリー大学、ミシガン州立大学の教授を歴任された。1974年には、ミシガン州立大学名誉教授となられた。

琉球大学で、ミシガン大学派遣教授として1957年10月～1960年6月と、1964年7月～1966年の6月の2回延6年の長きに亘って英語・英文学について講義を担当され、多くの学生を育まれた。先生の御冥福をお祈りし、マーガレット夫人の御厚意に対し、深い感謝を捧げます。

寄贈図書リスト (1部)

1. John O' Grady: Aussie English. 1950
2. C. T. Onions: Seet's Anglo-Saxon Reader. 1950
3. Donald G. Brennan: Arms Control, Disarmament, and National Security 1961
4. The Anglo-Latin Satirical Poets and Epigrammatists of the Twelfth Century. 1872
5. Franklyn Bliss Snyder: A Book of English Literature. 1936
6. Samuel Johnson: Boswell's tour to the Hebrides. 1936
7. Mike Douglas: Kermit Schafer's Blunderful World of Bloopers. 1973
8. Walpole Horace: Selected Letters. 1926

9. William Styron: The Confessions of Nat Tuener.1967
10. Lawrence Durrell: Clea.1960
11. Karl Marx: Capital the Communist Manifesto and other Writings.1932
12. Greever Garland: The Century Handbook of Writing.1922
13. Belles Lettres:Everyman's Library edited by Ernest Rhys.1927
14. Hugu Thomas:CUBA. The Pursuit of Freedom.1817
15. George O.Curme: College English Grammar.1925
16. Randolph Quirk: A Concise Grammer of Conteporary English.1973
17. Gwendolen Murphy: A Cabinet of Characters.1925
18. Francis B.Gummere: Founders of England.1930
19. Brander Mattcomb: Chronological Outlines of American Literature.1984
20. Leslie Nathan Broughton: Edmund Burke Selections.1925

教 官 寄 贈 図 書

昭和61年11月から昭和62年1月31日までにご寄贈いただいた分を掲載します。(敬称略)

- | | |
|-----------------|---|
| 島 袋 伸 三 (人文地理学) | 「沖縄地理第1号」 沖縄地理学会 1986 |
| 宮 里 清 松 (名誉教授) | 「宮里清松教授退官記念誌」 宮里清松先生退官記念事業会
1986 |
| 新 城 明 久 (畜産学) | 「生物統計学入門-計算マニュアル-」 朝倉書店 1986
「日本の在来馬-その保存と活用-」 新城明久他著 日本馬
事協会 1984 |
| 江 上 能 義 (法政学) | 「情報とデモクラシー」 宮田信男他著 学陽書房 |
| 池宮城 秀 正 (経済学) | 「嘉徳堂規模帳 沖縄研究資料7」 |
| 鶴 飼 照 喜 (社会学) | 「新石垣空港建設計画の問題点」 新石垣空港建設問題を考
える会編 1986 |
| 石 川 友 紀 (地誌学) | 「ボリビア国コロニアオキナワ移民の再移住に関する実証的考
察」 (沖縄地理1号53-64P) 1986, 「ハワイ日本人官約移
民百周年記念講演集」 The Japanese Educational Fun-d
of Hawaii編 (財)ハワイ日本語普及教育振興基金 |
| 崎 浜 秀 栄 (技術科教育) | 「実習室の管理と安全-技術教育における-」 那覇出版社
1986 |
| 宮 里 清 松 (名誉教授) | 「サトウキビとその栽培」 日本分密糖工業会 1986 |
| 水 野 益 継 (法律学) | 「裸の行為論-行動学の諸相とその概念-」 セオドール・ミッ
セル著 水野益継監訳 時潮社 1987 |

- 屋 良 秀 夫 (機械工学科) 「高クロム系2相ステンレス鋼溶接棒による湿式水中溶接部の溶接割れ防止に関する研究」 1985 学位論文
- 中 原 俊 明 (法経学) 「統一協会と文鮮明」他 和賀真也著 新教出版社
- 山 里 純 一 (歴史学) 「八重山芸能と私たち」 琉球大学八重山芸能研究会創立20周年記念誌編集委員会
- 上 原 方 成 (土木工学) 「瀬戸内の明日を拓くブレーン 中小企業のための人材情報87〈広域編〉 中四国中小企業情報センター連絡協議会
- 鈴 木 雅 夫 (家庭科教育) 「歴史の町なみ中国・四国・九州・沖縄篇」 日本放送出版協会

ブラウジング・コーナー

貴女に見せてもらった本

図書の貸出は年間の1日平均は300冊程だが長期休暇を除くと400冊くらいで、試験期には700冊に達することがある。試験期の多忙な時期には学生も忙しいらしくて、閲覧カウンターで奇妙なやりとりが起こったりする。「先日貴女に見せてもらった本を見せて下さい。」とある学生が係員に頼んだ。「どんな本でしたか。」「統計資料の載っている本です。」当の学生は書名や著者を全然覚えていないらしい。言うことが要領を得ない。係員は連日4・5百人の学生に図書やその他の資料を提供しているので、思い出せず当惑してしまった。「失礼ですが、貴君の顔はよく覚えていますが、貴君にお見せした図書は覚えていません。すみません」と謝まって帰ってもらった。この話を聞いて怒る人がいるかと思うと大笑いする人もいて、また一興である。



図 書 館 事 情

〔第170回図書館運営委員会〕

日 時：昭和61年12月8日（木）13:30～

場 所：附属図書館会議室

議 題：1. 1987年共同利用購入国内雑誌（案）について
2. 昭和62年度大型コレクション収集計画について
3. その他

報告事項：1. 学術雑誌見直し検討委員会
2. 磁気カードによる文献複写サービスについて
3. 業務電算化について
4. 沖縄関係貴重資料展について
5. 学術情報システム特別委員会ネットワーク専門委員会について
6. その他

〔出 張〕

昭和61年11月12日（水）参考調査係 金城真理子

第18回国連寄託図書館会議出席、福岡・15日まで

昭和61年11月16日（日）受入係 平田武

昭和61年度大学図書館職員講習会出席、京都・21日まで

昭和61年11月20日（木）分館閲覧係長 野原敏弘

第7回大学図書館研究集会出席、東京・22日まで

昭和61年11月20日（木）図書館専門員 新井裕丈

沖縄地区行政管理セミナー出席、那覇・21日まで

昭和61年12月4日（木）整理課長 尾崎一雄

昭和61年度九州地区国立学校等安全管理協議会出席、那覇・5日まで

昭和61年12月8日（月）総務係 玉城実

第14回沖縄地区中堅係員研修、那覇・17日まで

昭和61年12月19日（水）整理課長 尾崎一雄

九州大学における業務電算化調査、福岡・20日まで

昭和62年1月28日（水）事務部長 前田正三

昭和61年度国立大学附属図書館事務部長会議出席、山口・31日まで

昭和62年2月3日（火）整理係長 新城安善

整理業務の実情調査、京都・金沢・大阪・6日まで

昭和62年2月25日（水）館長 國府田佳弘、事務部長 前田正三

矢内原忠雄先生蔵書寄贈折衝及び文部省事務打合せ、東京・27日まで

〔来館者〕

- 昭和61年10月31日（金）沖縄県立教育センター研修生 8人
昭和61年12月2日（火）駐日米国大使館図書館長 トーマス・レイモンド氏
昭和61年12月5日（金）愛媛大学附属図書館事務部長 浅野次郎氏
昭和62年1月14日（水）沖縄県総務部職員 16人
昭和62年1月26日（月）学術情報センター 根岸正光教授・慶応義塾大学 細野公男教授・東京
大学大型計算機センター 小澤宏助手
昭和62年2月18日（水）農林水産省図書館技官 古江義賢氏
昭和62年2月25日（水）宮崎医科大学 図書課長 佐田忠鴻氏、後藤孝氏
昭和62年3月2日（月）筑波大学図書館部運用課共通書庫係長 高木三男氏

〔講演会〕

- 昭和61年11月5日（水）17：00～20：00
講演者：金城須美子（調理学）教育学部助教
演題：沖縄の肉食文化について
昭和61年12月8日（月）17：00～20：00
講演者：我部政明（国際関係論及び外交史）法文学部講師
演題：フィリピンの政治事情

〔その他〕

- 沖縄県大学図書館協議会研修会
昭和61年12月6日（土）10：30～11：30
講演者：金城照子（整理係）
演題：洋書目録のとり方について
昭和62年1月23日（金）17：00～
講演者：大嶺哲雄館長・沖縄国際大学附属図書館
演題：琉球列島の動物の由来

医学部分館コーナー

1987年共同利用購入国内雑誌について医学部分館ではこれまで学術雑誌のみを購入してきましたが、1987年1月より共同利用購入国内雑誌として、下記の教養雑誌等16誌を医学部分館にも備付けることになりましたので御利用下さい。

- | | | | |
|---------|-----------|--------------|-----------|
| 1. アニマ | 5. 大学と学生 | 9. 暮らしの手帳 | 13. 留学と会話 |
| 2. アトリエ | 6. 映画芸術 | 10. Newton | 14. 新潮 |
| 3. 文芸春秋 | 7. 医師國試対策 | 11. 音楽の友 | 15. 旅 |
| 4. 中央公論 | 8. からだの科学 | 12. ライフサイエンス | 16. 太陽 |

〈医学科大学院設置視察について〉

昭和62年2月20日（金）浅田敏夫委員 他10数名館内視察

〈来館者〉

昭和62年2月25日（水）宮崎医科大学教務部 佐田忠鴻図書課長 他2名

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第20巻 第1号 [通巻第74号]

昭和62年3月20日 発行

発行 琉球大学附属図書館 沖縄県西原町千原1番地

電話（09889）5-2221 内線（2143） 編集 びぶりお編集委員会